

WHAT 清陵 ? WHY 清陵 ? (4)

中学生の皆さんはポートフォリオという言葉を知っていますか。現在の高校1年生から、大学入試の出願時に提出を求められるものです。ポートフォリオ (Portfolio) とは、本来の語源はイタリア語のポルタフォリオ (Portafoglio) で、「札入れの財布」を意味します。因みに横浜駅東口地下街にある「ポルタ」は、このポルタフォリオと同じ接頭辞のポルタで「門」とか「扉」を意味します。このポルタフォリオが英語ではポートフォリオとなり、ポートが港の意味で、港に陸揚げされる物品リストを示すようになったといわれています。そこから更に「紙ばさみ」「書類入れ」という意味になったようです。正式には書類を出し入れすることのできるケースという方が適切な意味だと思います。このポートフォリオという言葉は、近年は入社試験のみならず、金融や教育にも用いられてきています。金融では金融商品の組み合わせで用いられ、教育では生徒が自らの活動履歴を提出するための活動履歴ケースの意味に用いられます。

このポートフォリオが高大接続改革に基づき、現1年生から入試の合否判定に用いられることになりました。しかしながら高大接続ポータルサイト JAPAN



e-Portfolio の画面には、現在の3年次生が受験する平成31年度入学試験において、JAPAN e-Portfolio を活用する大学・入学制度一覧が記載されています。これによると選抜データとして活用する大学は、国立大学では群馬大学の推薦入試、大阪教育大学の推薦入試があります。私立大学でも同志社大学、立命館大学、関西大学、関西学院

大学の一部入試で活用されます。

他には、今後の入学者選抜改革に向けて参考・参照として利用する大学の一覧が記載されています。例えば、国立大学では東京医科歯科大学、金沢大学など、公立大学では秋田の国際教養大学、横浜市立大学、私立大学では青山学院大学、中央大学、國學院大學、明治大学、上智大学、桜美林大学、関東学院大学等の大学が、推薦入試やAO入試など一部の入試制度で活用する予定です。さらに、統計データとして活用する大学として公立大学の首都大学東京、横浜

市立大学、私立大学では立教大学、立正大学、関東学院大学、東京経済大学、日本女子体育大学、東洋英和女学院大学等が、一般入試や推薦入試、AO入試で活用します。利用する大学でどの入試制度に利用するのかは、大学によって異なりますので自ら調べることが必要です。可否の判定に利用しない大学でも、データ提出が必須なのか、任意なのかは大学によって異なりますので、同様に自ら調べることが必要です。



現在、JAPAN e-Portfolioのポータルサイトに活用する大学の一覧は、平成30年7月13日現在のものです。アスタリスクの注を読むと、「大学からの更新を受け、随時更新してまいります」と記されています。ということは、これからも参加する大学があるかもしれません。

自分の受験する大学がJAPAN e-Portfolioを活用する大学の場合、受験生である生徒一人ひとりが、このJAPAN e-Portfolioのサイトに入り、自らのポートフォリオを作成しなくてはなりません。受験生にとって一般受験の勉強時間や、小論文、面接練習の時間以外に、ポートフォリオを作成する時間が必要となります。

ポートフォリオの入力画面を見ると、探究活動、部活動、学校行事、資格・検定、表彰・顕彰、生徒会・委員会などの項目があり、これらの項目に自らの活動実績を入力し、大学側に提出することになります。そのためには、自らの高校生活や学校外の活動記録を、メモ等に留めておく必要があります。そのような対応をしていないと、大学出願時に急にポートフォリオを作成しようとしても、なかなか高校入学後の出来事を思い出すことができず、満足のいくポートフォリオを作成することができないと思います。そこで本校では生徒手帳に、自分の学習や部活動、委員会活動、資格などの記録等を、日記や生徒手帳などに記すことができるようになっていきます。さらに、その生徒手帳に記されたものを、定期的に校内の個人フォルダーに入力し、個人の活動記録を保存していきます。そして大学入試の出願の時に、個人用のJAPAN e-Portfolioに入力していく方法を取る予定です。慌ててポートフォリオを作成しなくても済む対策を取っていきます。

自分の受験する大学が